

しんこう

(題字：植田美夫)

発行人 植田美夫

編集人 中原悠司

原 洋志 小林 博

白石富男 泉 善高

青春を過ごした横浜を忘れていませんか！

よこはま10問

(神奈川県検定問題集より)

採点した結果はいかがですか(編集子の判定)

正答 8~10問 横浜は わが街

4~7問 横浜は 忘れ難し

0~3問 横浜は 忘却のかなた

第1問

江戸時代、東海道保土ヶ谷から金沢八景や鎌倉へ向かう道があった。金沢八景や鎌倉の名所旧跡を訪れる人々でにぎわったこの道は、何と呼ばれていたか。

- ①八幡宮道 ②金沢道 ③杉田街道 ④中原道

第2問

安政元(1854)年、アメリカ東インド艦隊司令長官のペリーは幕府全権と日米和親条約を締結したが、その場所はどこか。

- ①横浜村 ②神奈川宿 ③吉田新田 ④鶴見村

第3問

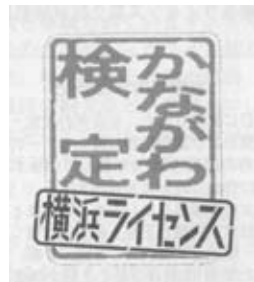
金沢区洲崎町には「憲法草創之処」の碑がある。この碑は、金沢区で明治憲法の起草準備が行われたことを記念して建てられた。起草に携わった政治家は誰か。

- ①西郷隆盛 ②伊藤博文
- ③大隈重信 ④後藤象二郎

第4問

「別れのブルース」の中で、「メリケン波止場」と歌われている船着き場はどれか。

- ①山下ふ頭 ②大さん橋
- ③瑞穂ふ頭 ④新港ふ頭



第5問

日本の大きな港は、所在地名による一般名称とは別に、地形を表したり縁起のよい文字を付けた美名を持つことが多いが、横浜港の美名は何というか。

- ①金港 ②扇港 ③鶴港 ④巴港

第6問

大佛次郎記念館と、県立神奈川近代文学館を結ぶ姿の美しい橋の名称はどれか。

- ①万国橋 ②霧笛橋 ③霞橋 ④横浜ベイブリッジ

第7問

横浜が生んだ「混血の天才ボクサー」カシアス内藤を描いた『一瞬の夏』で、新田次郎文学賞を受賞した、横浜国立大学出身の作家は誰か。

- ①逢坂剛 ②沢木耕太郎 ③山際淳司 ④矢作俊彦

第8問

「ジャックの塔」と親しまれている横浜市開港記念会館の敷地には、青銅のレリーフが彫り込まれた碑があるが、誰の「生誕之地」か。

- ①原富太郎 ②岡倉天心 ③茂木惣兵衛
- ④左右田喜一郎

第9問

三溪園には多数の重要文化財建造物がある。中でもシンボリックな建築物は旧燈明寺三重塔だが、この塔は元はどこかの都道府県にあったものを移築したか。

- ①神奈川県 ②岐阜県 ③京都府 ④和歌山県

第10問

横浜中華街には10基の牌楼があるが、西方を守る「白虎神」はどれか。

- ①延平門 ②朝陽門 ③玄武門 ④朱雀門

平成23年度進交会近畿支部の集い

10月12日(水) 19:00~ リーガロイヤルホテルにて開催

11,12ページにご案内しています。

正答と解説

第1問 ②

現在、保土ヶ谷区帷子町（江戸時代の保土ヶ谷宿）の金沢横町と呼ばれる通りに面した場所に、江戸時代に作られた4基の道標が残されている。道標には円海山・富岡・金沢などの地名が刻まれ、かつてこの地点が保土ヶ谷宿から現在の磯子区や金沢区方面に向かう道（金沢道）の分岐点であったことを知ることができる。

第2問 ①

横浜開港資料館が建っている場所は、江戸時代に横浜村と呼ばれた村であり、安政元（1854）年に、アメリカ東インド艦隊司令長官のペリーと幕府全権が日米和親条約を結んだ場所として知られている。この地が日米交渉を行う場所に決まったのは同年1月28日で、この日、浦賀奉行所の与力香山栄左衛門がペリー艦隊参謀長のアダムスを案内して横浜村に上陸し、横浜村が交渉場所に適していることを確認した。

第3問 ②

横浜市金沢区は、大日本帝国憲法の「ふるさと」である。日本において憲法起草の準備が始まったのは1882（明治15）年のことで、この時、政府は伊藤博文らをヨーロッパに派遣し、各国の憲法を調査させた。その後、伊藤は日本に帰国し、1887（明治20）年6月から夏島（現在、横須賀市）の伊藤の別荘と金沢の旅館東屋（現在の金沢区洲崎町にあった旅館）で憲法草案作成作業を進めることになった。



洲崎町に建っている憲法草案の碑

第4問 ②

「窓を開ければ 港が見える メリケン波止場の灯が見える」の歌い出しで知られる「別れのブルース」が、レコードに吹き込まれたのは、1937（昭和12）年。ブルースの女王と呼ばれた淡谷のり子が歌っている。

西の神戸港にもメリケン波止場はあるが、横浜港でメリケン波止場といえば大さん橋の異称。このさ

ん橋は、1894（明治27）年、イギリス人技師パーマーの設計により、横浜港でも最初に作られた大型船発着施設だが、前身はイギリス波止場の名で知られた突堤で、ここから米国向け貨物も積み出された。そのため、アメリカ人がなまったメリケンの愛称で親しまれる。メリケン波止場の呼称は、それに由来する。



2002年にリニューアルオープンした横浜港大さん橋国際客船ターミナル（手前）

第5問 ①

金港は横浜港を指す言葉。開港50周年を記念して造られた横浜市歌は森鷗外の作詞。歌は、「わが日の本は島国よ」で始まり、「飾る宝も入りくる港」で結ばれている。その連想から、金港の金は金銀の財貨が集まり、港が繁栄することと思われがちであるが、別の意味ももっている。古くは、神奈川を金川とも書いていた時代、金港は「金川（神奈川）の港」であって、縁起のよい「錦の港」の意味もふくませて、横浜港を“きんこう”と呼んだものと思われる。

第6問 ②

港の見える丘公園の花壇の向こうにモダンな佇まいを見せる大仏次郎記念館。住まいは鎌倉だったが、横浜生まれで横浜をこよなく愛した作家大佛次郎は、ホテルニューグランドの一室で執筆を続けたこともよく知られている。

記念館に向かって左手にあるのが霧笛橋だ。大佛次郎の作品「霧笛」にちなむ。名前も美しいが、アーチ型の橋の姿もなかなか見事だ。橋を渡れば県立近代文学館だ。谷を挟んで文学に関わる施設が並ぶ。



霧笛橋

第7問 ②

逢坂剛は、1943（昭和18）年、東京生まれ。1986（昭和61）年『カデイスの赤い星』で第96回直木賞受賞。他に『百舌の叫ぶ夜』など。沢木耕太郎は、1947（昭和22）年東京生まれ。横浜国立大学経済学部卒。1970（昭和45）年、『防人のブルース』でルポライターとしてデビュー。1979（昭和54）年『テロルの決算』で、第10回大宅壮ノンフィクション賞、1982（昭和57）年『一瞬の夏』で第1回新田次郎文学賞、1985（昭和60）年『バーボン・ストリート』で第1回講談社エッセイ賞、1993（平成5）年『深夜特急 第三便』で第2回JTB紀行文学賞、2003（平成15）年にはこれまでの活動に対し第51回菊池寛賞、2006（平成18）年『凍』で第28回講談社ノンフィクション賞を受賞。

『一瞬の夏』は、プロボクサーのカシアス内藤が、世界チャンピオンに再挑戦する姿を、単なる取材者としてではなく、“私ノンフィクション”という新たな手法で克明に描いた。

第8問 ②

1917（大正6）年に建てられた横浜市開港記念会館は国の重要文化財だが、その敷地には、史跡横浜町会所跡の石碑や横浜商工会議所発祥の地の記念碑と並んで「岡倉天心生誕之地」の碑がある。レリーフの作者は新海竹蔵、題字は日本画家安田靉彦の筆である。

第9問 ③

2007（平成19）年に、国の名勝に指定された三溪園は、根岸湾に近い横浜市中区本牧にある。三ノ谷と呼ばれる溪谷の、起伏に富んだ自然の地形を存分に生かして造られた庭園。その敷地面積は17万5千㎡にも及ぶ。

横浜の生糸貿易商だった、原富太郎（雅号三溪）によって創設され、一般公開されたのは1906（明治39）年。2006（平成18）年に、開園百周年を迎えた。広大な園内には、三溪により日本各地から集められた国指定重要文化財の、10棟を含む17棟の歴史的建造物が、それぞれに相応しい場所にしっかりと配置されている。「旧燈明寺三重塔」は、三溪園のシンボリックな建造物で、聖武天皇の勅願寺京都府燈明寺にあったものを、1914（大正3）年に移築した。



旧燈明寺三重塔

第10問 ①

横浜中華街の牌楼（門）は、中国の風水思想に基づいて建てられている。「春夏秋冬」「朝昼暮夜」という陰陽五行に基づいた「青赤白黒」で彩られ、各方位の守護神として四神を据えた。守護神は東-青龍神、南-朱雀神、西-白虎神、北-玄武神が、街の平安と安全を24時間守っているのである。

構楼の名称は、東が朝陽門：日の出を迎える繁栄をもたらす門で色は青である。南は朱雀門：厄災を払い、大いなる福を招く門で色は赤である。そして、西は延平門：平和と平安の安らぎが未来に続くことを願う門で色は白である。北は玄武門：子孫の繁栄をもたらす門で色は黒である。



朝陽門（東）

朱雀門（南）



延平門（西）

玄武門（北）

閑話休題 〈横浜歌謡曲ベスト10〉

- ブルーライトヨコハマ（いしだあゆみ）
- よこはま・たそがれ（五木ひろし）
- LOVE AFFAIR～秘密のデート（ザ・ソウルスターズ）
- 追いかけてヨコハマ（桜田淳子・中島みゆき）
- ふりむけばヨコハマ（マルシア）
- サヨナラ横浜（石原裕次郎）
- 待ちくたびれてヨコハマ（柏原芳恵）
- 恋人も濡れる街角（中村雅俊）
- ビューティフル・ヨコハマ（平山三紀）
- 横浜いれぶん（木之内みどり）
- ドール（太田裕美）

日本社会は今、どこに向かおうとしているのか…

昭 40 商 小坂 勝之 (京都府相楽郡)

3月11日午後、宮城、岩手、福島の東北三県を中心に東日本を襲った大震災は、未曾有の規模の犠牲者と被害をもたらし、さらに、福島第一原子力発電所の爆発と炉心溶融に伴う周辺地域への放射能被害は、事態収束の予測すらできず、もはや廃炉しかない状況となっている。



さらに大震災は、我が国経済の再生産構造にも計り知れない影響をもたらすとともに、今までの経済成長・効率優先の価値観やライフ・スタイルも見直しが必至の事態となっている。

また、原発事故は、遠い東北地方の問題ではなく、大阪の水甕である琵琶湖まで 20 キロ圏内の敦賀原発 (活断層上に建設) を抱える滋賀県や京都府 (高浜、大飯原発…いずれも近くに活断層…から舞鶴、綾部は 10 キロ圏内) にとっても、余所事ではない現実を突き付けられることになった。

「日本社会は今、どこに向かおうとしているのか…」と疑問に思うことが少なくない昨今であるが、我が国の高度成長とその負の遺産を振り返り、私たちが直面している現状について所見を述べてみたい。

私が市大に入学したのは 60 年安保の翌年の 1961 年で、当時は米ソ対立の激化していた東西冷戦下であり、4 年時にはアメリカによる北爆が開始され、横須賀に原潜が寄港し始めた時代でもあった。

60 年安保の直後のわが国では、池田内閣による「所得倍増論」が声高に叫ばれ、まさに日本が「高度成長」の道を歩み始めた時代であり、その影響で 3～4 年時のゼミは、近代経済学専攻の一杉ゼミの門を叩くことになった。

そして一杉ゼミでの 2 年間の研修と 4 年時の同期生との読書会は、人生観や社会観の形成にとって極めて貴重な経験となった。

ゼミの原書講読では、ケインズや新古典派の経済学の「スタグフレーション」(スタグネーション=停滞とインフレーションの合成語)等を学んだが、当時のアメリカではすでにケインズ経済政策の行き詰まりと限界を予測する新古典派 (最近はその学説の限界が明確になり、膨大な双子の赤字を抱えたアメリカ経済は、回復不能の破産状態に陥っている) が登場していたが、その学説をゼミの原書講読に選

んでいた当時の一杉先生の慧眼には恐れ入るばかりである。

しかし、乗数理論を駆使し、人々の心理的消費性向に経済の好不況の原因を求めるケインズ経済学に限界を感じ、数名の友人と空き教室を利用し「ドイツイデオロギー」、次いで「資本論」の読書会を始め、「資本論」1部を読破し、マルクスの哲学、経済学と資本主義分析の理論を学んだ。

そして読書会の集大成として文集(「ロゴス」)を発行し、ゼミ同期生などに配布した。

この経験から卒論は、ゼミのテーマとは異なる「経済学における価値論」(大それたテーマを選んだと今、考えれば汗顔の極みでもあるが…)と題し、学習成果をまとめ、卒論として提出した。未完の論文ではあったが、一杉先生は寛容で卒論として認めてくれた。

この経験から近代経済学、マルクス経済学の何たるかは概ね理解、習得でき、現在も月刊誌は経済専門誌 1、総合誌 3 冊を購読し、政治・経済の諸問題には通暁していると自負している。

卒業後、高度経済成長のまっただ中の企業で企業戦士として 38 年間働き、高度成長の恩恵を受け、高度成長の終焉とともに退職し、定年後は地域社会との関わりの中で生きる小生にとって、「日本社会は今、どこに向かおうとしているのか…」は、大変、大きなテーマとなっている。

次に現在、日本社会が直面している異常な状況と問題点を列挙し、諸兄への問題提起としたい。

1990 年頃を境にして我が国の経済成長は行き詰まり、「失われた 10 年」が叫ばれて久しくなるが、2000 年代に入り、我が国でも新自由主義的経済政策が行き詰まり、「小泉構造改革」の破綻により日本社会は極めて異常な状況に追い込まれることとなった。

《今、我が国が直面している異常な状況とは》

- 働く人の 3 人に 1 人が「非正規労働者」(労働基本権の喪失による無権利状態)という労働環境となっている(私の住む町では、町職員の 40%強が非正規職員で、彼らの賃金は、町の一般会計では人件費ではなく物件費扱いとなっている)
- ワーキングプアの増加: 年収 200 万円以下の民間企業の労働者が 1,100 万人(雇用労働者の 4 人に 1 人=24.5%)
- 雇用情勢の悪化: 仕事が見つからない新卒者や失業者が街に溢れている
- 生活保護受給世帯が 145 万、生活保護受給者が 200 万人を突破(戦後最高)
- 「自殺者」が年間、3 万人を越え、誰に看取られることもなく亡くなる人(行旅死亡人)も年間 3 万人という「無縁社会」が大問題となり、

人と人の繋がりが希薄な社会に

○国保税滞納世帯が 20%、無保険者（医療保険料を払えないため無保険に）が増大
など、かつて「高度経済成長」を謳歌した日本社会は、異常な状況に陥っている。

そして「失われた 10 年」は、いつの間にか「失われた 20 年」となり、この異常な状況が、一昨年の政権交代につながった。

しかし、民主党政権は国民の期待を裏切り続け、まさに自民党と同質の危険な体質（財界の「成長戦略」と同一内容の「新成長戦略」を策定）を露にし、日本社会はより一層、出口のない閉塞状況に陥り、二大政党制は行き詰まり、明るい展望の持てない政治・社会情勢に突入することになった。

このような政治・社会情勢の中で行われた今春の統一地方選挙では、メディアが「既存政党対地域政党の対立」とおおった影響もあり、「大阪維新の会」「減税日本」などの地域政党が急伸する結果となり、6 月には大阪府議会で「君が代」「議員定数削減」条例の強行可決が行われるという異常な事態に陥っている（この件に関しては、「全体主義の危険」を叫ぶ学者も少なくない）。

しかし、これらの事態は、ポピュリズム（大衆迎合主義...国民の理性というより感情をあおることによってある種の政治的目的を達成していくような政治手法）といわれるやり方で、「小泉構造改革」や一昨年の「政権交代選挙」で既に破綻済みの手法であり、国民主権や地方自治、そして日本の民主主義にとっても非常に危険な兆候となっている。

現在、私なりに把握している

《今、我が国が直面している山積する難題》は

- 少子・高齢化社会の到来とこれに伴う医療・社会保障の財源
- 1000 兆円（GDP の倍近い金額）にも達しようとしている国の借金：その主たる原因は、1980 年代から 90 年代にかけて、プラザ合意に基づく 4 全総から 6 全総にかけての国内需要創出のため、660 兆円にもものぼる巨額の赤字国債の発行による公共投資の実施（財政法 4 条を無視し、全国に高速道路、巨大港湾、空港、ダムや 3 本もの本四架橋を建設 etc）、国民を犠牲にしたゼロ金利政策の導入とゼネコン、破産金融機関の救済のための税金投入による付けが残ったため
- 資本の論理むきだしに政府に要求するだけの財界と大企業の横暴とこれを追認してきた国の省庁
- 大企業の生産基盤は中国、東南アジア諸国に、中小企業の倒産による国内生産基盤の空洞化：昔の京浜工業地帯の面影はもはやない
- 「規制緩和」、「官から民へ」の名の下での新自

由主義的政策の破綻

- 大企業の内部留保の増加と労働者の賃金の大幅下落（GDP の 60% に該当する消費需要の減少）
- 年金・医療への政府支出の大幅削減
- その結果として日本経済は縮小再生産（マイナス成長）の構造に
- 「震災復興」に名を借りた消費税の増税と「復興税」の新設、「開発特区」「道州制推進」の策謀
- リーマン・ショックによる金融資本主義の破綻と資本主義の腐朽性の深化（東欧・ソ連の崩壊により東西冷戦は終息し、資本主義は勝ったと喧伝されたが...）
- 世界の構造変化：アメリカ一極支配から多極の世界へ（BRICS、中南米諸国の興隆と中東・アフリカ諸国の民主化 etc）→アメリカの世界戦略破綻、アメリカ追従政策の破綻
- 地震多発国日本での原子力中心のエネルギー政策の抜本的な見直しは必須
- 批判精神を喪失してしまった巨大メディア
- 憲法理念の形骸化（9 条、生存権、労働基本権、教育権、地方自治 etc）と戦後民主主義理念の喪失
- 混迷する政局と連立の動き—政権交代は幻想でしかなかったのか...

まさに、我が国が直面している政治・経済・社会の課題は大きく、多様である。それだけに私たち一人一人に課せられた責任も重いといえよう。

今、「何よりも人が大切にされ、人と人とが地域で支え合う」、そんな社会の再構築が急務では...と痛感する昨今である。そのためにも、ささやかではあるが地域社会の一員として自分にできることを取り組みたいと考えている。

以上、私たちが直面している日本社会の現状と課題を提起し、小生からの警鐘としたい。

最後に 5 年前より始めた俳句の近作を記し、小論を終えたい。

みちのくの花に命のほむら見る
花筏分けて疏水を番鳥
夏立つや梅花藻揺るる地蔵川
博物館出でて清和の飛火野に
神苑に瀬音溶け行く五月闇

こだわりの趣味

昭 35 商 大石 昭 (枚方市)

独断と偏見で、このテーマについて、綴ることをお許しいただきたい。人間誰しも多い少ないはあるにしても、何らかの趣味は持っている。楽しむ程度の趣味もあれば、はまり込んで、こだわりの領域



にまで、入り込んでいる趣味もある。今回、「しんこう」に寄稿せざるを得なくなったが、果して原稿を書こうにも、その題材が中々見つからない。どんな題材にしようかと、悩んだ末、ようやく、辿り着いたのが、このテーマ「こだわりの趣味」である。このテーマは、「海釣り（船釣り）と池釣り（へら鮒釣り）」について書くことにする。

釣りを趣味としている普通の人は、この両方に、はまり込んでいる人は少ない。どうして小生が、この両方をやるかという、両方共に、こだわりの領域にはまり込んでいるからかもしれない。そこで、その中味について、ふれたいと思うが、その思いは独断と偏見で綴ることになることをお許しいただきたい。

まず、「海釣り（船釣り）」を好む人は、どちらかと云えば、我々の仲間の中でも、豪快な釣りを好む人が多い。そして、「池釣り（へら鮒釣り）」を好む人に対して、「しんきくさい釣り」、「退屈な釣り」、「年寄りがやる釣り」といって、敬遠する人が多い。一方、へら師達は、海釣りは、「おおざっぱな釣り」で、釣りの技術の点からみれば、「釣りにあらず」という。

そこで、それぞれの良さは、どんな点かを見るならば、「海釣り（船釣り）」は、①和歌山・印南方面、若狭・小浜方面、明石・姫路方面と、遠出、遠征をする。②釣る魚は鱈、鯖、キス、イカ、太刀魚、マダイ等、実用的な魚を狙う。③釣った魚は、「さしみ」、「天ぷら」、「塩焼き」、「一夜干し」等、調理の仕方が千差万別で、大変実利的。近所の人に「お裾分け」をしたりすると、魚が新鮮なので、非常に喜ばれる。

次に、それぞれの技術的な点を比較してみると、まず、「海釣り（船釣り）」は、仕掛けや、エサは、同じであり、釣船の座席が違う以外は、ほとんど差がない。そのため、釣果に余り差が出ない。趣味と実益を兼ねた釣りであると云える。一方、「池釣り（へら鮒釣り）」は、これ程、技術差がつく釣りは他にない。よく釣る人と、釣れない人との差は、2倍、3

倍とつく。よく釣れる人の隣で釣っても、全く釣れないということは、ザラにある。これは、「へら鮒釣り」の基本は、自分が仕掛けを同じ場所に、正確に落とし込み、回遊してくる「へら鮒」を「集めて」釣る釣り方であるからである。

更に、技術差が大きくなるのは、①エサの作り方、②棚の取り方、③当たりの合わせ方、④同じ場所に正確に落とし込むテクニック、⑤釣れる場所の見つけ方等々、そこで、小生が、「海釣り（船釣り）」と、「池釣り（へら鮒釣り）」の両方をなぜ使うようになったかは、多分変化に富んだ豪快な海釣りに魅力を感じる一方で、繊細なテクニックをとことん追求する「へら鮒釣り」にはまり込んでゆく「こだわり」があったからかもしれない。

しかし、ここまで「こだわり」を感じるようになったのは、どうやら、子供の頃に身についた釣りの楽しさが、影響しているのではないかと思われる。それは、小学校1～2年の頃、隣の家の叔父さんによく野池や川に「鮒釣り」につれて行ってもらったこと、小学校3～4年の頃（昭和19年）、疎開先で、近くの家や、入江で、「ハゼ釣り」に夢中になったこと等が、後期高齢者になった今、「こだわりの趣味」に変化しているのではないかと思えてならない。

紙面を汚してすみません

昭 36 文 原 洋志 (高槻市)

言葉というものは気軽に便利に使われているうちに次第に本来の意味合いから虚脱して言葉そのものの質を劣化させてしまうことがよくある。「すみません」という言葉もその一つだ。「すみません」という言葉は元来「ごめんなさい」と同義語であったはずだ。それが今では「ありがとう」「こんにちは」「お待たせしました」「お願いします」「もしもし」「失礼ですが」「ちょっと通して下さい」「ちょっと待ってください」「ゆずって下さい」「私に注目して下さい」などなど。



「すみません」は「どうも」と並んで誠に使い勝手の良い便利な言葉としてまかり通っている。確かに私自身を振り返ってみても、買い物に出かけた折、店先で陳列してある商品を手にとって見せてもらうとき、女子店員に「すみません」とつい声をかけてしまったり、職場で離席中にお客様からの伝言を取り次いでくれた同僚に「すみません」と言ってしまう。正確には女子店員に対してはこちらが客なのだ

から「すみません」と何も謝る必要はないわけで、本来の意味合いからするとおかしな言い方なので、ここは「ちょっとその品物を見せて下さい」と言うのが本当だろうし、また職場の同僚に対しても「ありがとう」と礼を述べるのが正しい言い方だろう。このように言葉は知っていてもそれを日常生活で正しく使いこなしているかと言われると甚だ心もとない。

かくして今や「すみません」という言葉は多義語化したため謝る場合の言葉としての値打ちを下げたことは事実である。故にホテルやレストラン等の接客業界ではお客様に謝る場合の言葉としては「すみません」は今や不適合語として取り扱われており、謝る場合は「申し訳ございません」を使用するようマニュアル化して徹底指導しているとの事である。このことは我々が「すみません」という言葉を気軽に便利に使って過ぎて、言葉そのものの質を劣化させ陳腐化させてしまったからである。即ち「すみません」という言葉を乱用したために前述の接客業界に見られるごとく謝るべき肝心な時に使用出来ない言葉の範疇に追いやってしまったのである。

進交会近畿支部テニス同好会

昭40商 小林 博 (豊中市)

5月7日(土)快晴の万博公園テニスコートで進交会近畿支部テニス同好会のテニスを行いました。参加者は次の7名でした(敬称略、カッコは卒年)。植田(S34)、中村(S37)、富田(S40)、岡崎(S40)、小林(S40)、泉(S44)、植田氏の友人。

平成19年6月に発足した当同好会も最盛期は9人の会員がいましたが、若い人の入会がなく、高齢化に伴う身体の故障から退会する人が出て、今回の会員6人はフルメンバーでした。

平均年齢は卒年換算69歳でした。6人集まったものの、全員が身体にあそこが痛いここが痛い、どうなることかと思いましたが、そこはさすがテニスです。



1年前の写真ですが

実に良いスポーツです。しっかりとテニスを楽しみました。

当同好会は年に2回春と秋にテニスを楽しんでいます。老若、男女、うまいへたは一切問いません。テニスは何歳になってもそれなりにできるスポーツです。やってみようと思う方は是非1度来てみてください。(幹事小林連絡先:06-6833-1228)

福島での思い出

昭44商 後藤 隆雄 (三田市)

福島への転勤が決まったのはH9年です。当時の部長から“福島”だとのことで、場所はどこ、2人で喫茶店で手帳の地図を見ながら、「ここ、ここ」と確認。当時は名古屋で勤務、私の実家も市内で、久し振りに兄弟が揃い、両親の出身地山形県米沢市へ揃って行こうかと話していたところでした。



秋の転勤で、部員さんを車に乗せて企業訪問の途中、会津磐梯山の紅葉が黄金色に染まった景色は息をのむ美しさでした。仕事は拠点営業支部の人を増やし育てることが一番で、部員さんの協力もあり、順調に推移しました。

独身の部員さんが結婚されるとのことで、いろいろ話を聞くなかで、結婚式の費用が不足し、何とか不足分を福島競馬場のプロに頼み資金を作ったと聞き、何百人の顧客を持った彼女たちの情報の多さに改めて感心した次第でした。

今、デジタル放送が始まりますが、福島でのテレビ放送会社がデジタル化に向けての資金作りに生命保険を活用していただき、やっとスタートするとか、思い出深いものがあります。

相馬の先に火力発電所があり、その突堤でカンパチ釣りに行ったものでした。土曜日、仕事で事務所にいると釣友は午後クーラーにカンパチを4、5匹入れ、“どうだ”と言わんばかりに持ってきてくれたものです。

スキーは福島市内から安達太良の山が一望でき、久し振りに再開、天気の良いときはスキーと温泉を楽しみました。その後ウィンタースポーツとして毎年楽しんでいます。今年は山形蔵王の樹氷を見ながら滑ってきました。震災のちょうど一週間前です。

東日本大震災のニュースが連日報道されていますが、原町、浪江等、当時営業支部の拠点があったところで、震災で亡くなられた方のご冥福をお祈りいたしますとともに、復旧、復興にむけて一日も早く立ち直っていただきたいと思います。

スローライフの提言

昭 33 商 関 敏光 (高槻市)

あなたは、いつか実現したい夢をお持ちでしょうか？ リタイア後に海外で生活する？ それとも気候の良い田舎で自然に囲まれてゆったりと暮らす？ それほど大きな変化を求めなくとも、自分なりの趣味、料理・絵画・歌・ダンス・旅行・陶芸・スポーツなどなど、マイペースで楽しむもよし、地域やそれぞれ所属団体での活動の輪を広げ、仲間を増やし、楽しむことも出来るでしょう。



私自身、会社退職後 11 年になり、喜寿を過ぎ 77 歳の誕生日を迎えました。自分の個性を大切に、ゆっくりとではあっても自分なりの「夢」を着実に追求したいと願っております。これこそが「スローライフ」の真髄と言えるのではないのでしょうか？ 世間的にもリタイアされた多くの方々が他人に指図されることなく、他人に振り回されることもなく、自由に自分自身のセカンドライフを楽しんでいます。がむしゃらに、スピードを最優先に生きてきた時代は、もう過去のものとなりました。一人ひとりがゆっくりと自分の速さで充実した生活をおくる、「スローライフという生き方」がこれからの常識になりそうです。

昨今、私たちを取り巻く政治・経済・社会的環境は、非常な速さで急激な変化を遂げているように思われます。人々の価値観・生活観は益々多様化してきており、個性的であくまでも自分らしい生き方にこだわる人が増えてきたのではないのでしょうか。全速力で走る急成長・超特急の時代が終わった今、少しスピードを落として、ゆっくり歩きながら、これからの自分、これからの世の中について考えるべきでしょう。そんなスローな生き方、スローライフが私達の背丈にあった着実で等身大の成熟した大人の社会を誕生させるのかも知れません。

近年はセカンドライフの過ごし方も、人それぞれに多様化しています、隣の人の真似をするよりは、自分が本当にやりたい事をやった方が、セカンドライフ・スポーツライフを楽しく過ごす事が出来るでしょう。自分が本当にやりたい事をやるという事は人それぞれという事になります。だからこそ自分独自の「ライフプラン」が必要になるのです。私達にとって、子供や孫の教育・就職・結婚だけが第二の人生のイベントではないでしょう、「世界一周旅行をしたい」、「温泉地に別荘を持ちたい」、「趣味や習い事を極めたい」、などなど、自分自身の夢がいろいろあると思います。そのさまざまな夢(イベント)をし

っかり掲げ、充実したセカンドライフを長期にわたって支えるのが「セカンドライフプラン」なのです。勿論、プランを立ててもその通りに、実現出来ない場合もあるでしょう。当初の計画に狂いが生じる事もあります。それでも、プランを立てる事によって、狂った原因や、将来に備えて準備しなければならない事が、はっきりと見えて来るのです。

今一つ、スローライフに見逃せない要素は非常に速いペースで高齢化時代を迎えている事です。単純に高齢化社会というものを考えますと、非常にイメージが暗くなりますが、実は高齢化社会というのは、知恵や知識を持っている人たちが生きる社会です。それぞれのライフプランに、高齢者の持つ知恵や知識を存分に生かすべきでしょう。更に、スローライフをスムーズに進めるには、地域コミュニティとの良い関わり合いが大切ではないのでしょうか、共に助け合うコミュニティの世界です。そこでは、NPO の活動や、ボランティアの活動が活発化しております。特に、ボランティア活動は阪神淡路大震災以降活発に展開され、日本の社会が大きく変わり始めているひとつの指標ではないのでしょうか。これからの、「スローライフプラン」にはこれらの活動に積極的に参加する事を織りこむ事も大切だと考えます。何故ならば、今までは「行政(政府)にお任せの社会」でしたが、今や政府に「おんぶに抱っこ」では済まされない時代になって来たのです。各個人一人ひとりが、どのように「自己実現」していくかについて、「自己責任」が問われることとなります。

このような、一方の「政府依存」と他方の「自己責任」との間を上手に埋めるものが、実は「コミュニティ」ではないかと思うのです。つまり、政府に頼る事が「官助」、自己責任が「自助」、だとすれば、その間にあるのが「共助」、共に助け合うコミュニティの世界ではないかと思えます。先刻、NPO の活動や、ボランティアの活動が活発化してきていると、述べましたが、これも、地域社会の新しい担い手達が、行政でも自己責任でもカバー出来ない部分を埋めていこうとする、新しいスローソサイティに向けた働きではないのでしょうか。こういった観点から、地域社会をもう一度見直していくと、その中で生きる、各々の「スローライフ」に夢と希望をもたらしてくれる、大きな流れになるのではないかと思います。お互い、加齢と共に計画的な「スポーツライフ」を心がけましょう。

**あなたもこの方法で
自由で気ままなスローライフ
を送ってみませんか？**

「バットとグローブと包丁と…」

平6商 狩野 哲郎 (西宮市)

幼稚園の頃からバットとグローブしかもたない生活。そして、絶対無理と言われた浜大を受験。2次試験前夜に、3つだけやった数学問題とほぼ同じ問題が2つでて、多分100点。まさかの合格。

本音ではヨコハマ＝マリン、ウィンドサーフィンとかやってみたかったが、経験者とすぐに判明し硬式野球部に即入部。先輩からバイトに誘われ、魚のうまい小料理屋のバイトがスタート。毎日想像以上の忙しさ。

入って1週間、オーナーに「狩野ちゃん、ピッチャーだから魚も裁けるんじゃない」という声に乗せられ、包丁を持つ。アジが捌けた。その日から洗い物係から、板前のNo.2に。

そして怒涛の学生時代が始まる。9-12時が練習、13-16時が麻雀、17-23時がそのバイト、下宿先の近くのバーで朝の2-3時まで飲んで(20歳を超えてから)、帰宅。そしてまた9時がくる。その生活が4年間続いた。

硬式野球部では本当に素晴らしい先輩、同期、後輩に恵まれた。プレーが巧い、指導が巧い、人の上に立てる、ひたむき、熱心、まじめ。熱い男だらけだった。そのメンバーで2年の秋の一部昇格。2部では、浜大か防衛大学のグラウンド。浜大グラウンドは、フェンス代わりにハードルで、ここからここまでは2ベース、ここからここまでは3ベース。野球盤? 防大グラウンドには葉莢が落ちているは、フェンスがないので、外野抜けたらホームラン。1部は横浜スタジアム、保土ヶ谷球場・・・



夢のような野球環境で2年間を過ごす。バイトでは4年のときには店長も任せられ、卒業後、手取40万円を提示されるも一応就職活動し、当時筆記試験がなかった某商社に「三枚卸のできるピッチャーです」というキャッチフレーズのみでまさかの合格。初任給19万円だったので父親に相談したところまずはサラリーマンをやってみたら? ということで就

職(今も勤務)また、他の運動部の先輩同期後輩にも本当にお世話になった。

今でもそのメンバーとの付き合いは続いていて、大した話はしてないが、本当に楽しく、リセットされる感じがする。野球は怪我で最近活動できていないが、MY出刃、柳刃を使って、ホームパーティではまあまあ活躍。妻1人、子2人。バットとグローブと包丁と家族のお陰で楽しく生活できている。

[次回執筆依頼 平9商 山口 晶弘さん]

折り折りの俳句アンソロジー

PARTIII 富嶽諸相 21句

昭33商 西田 元彦 (茨木市)

プロローグ：余生を古里で過ごしたく、長年住み慣れた東京国分寺～大阪茨木へ古希の年に転居、今年で早5年が過ぎた。退職後、東京で(社)日本セカンドライフ協会の運営に携わり、山歩きとスキーの企画&リーダーを務めていた時、「富士を見る山歩き」というイベントを立ち上げ、シリーズとして15回実施、山好きのシニアたちに好評を博したのを昨日の事のように懐かしく思い出す。富士山から30km圏内に標高1,000～1,500m級の山々が約50あるといわれており。いずれも富士見台として素晴らしい山が多く、小生は30ほど踏んでいる。なお、本尊の富士山は山梨県側と静岡県側から登頂した。



春：富士周辺の山歩き

冠雪の富士に抱かれる山蒼し
嶺の雪映して湖(うみ)に影の富士
赤富士を見し昂(たかぶり)を春の温泉(ゆ)に
富士山の山襷きぎむ名残雪
今朝の富士女神のごとし水温む
大富士の曇れば花も曇りたる
春雷の三千六百峰わたる



夏：富士登山

天界へ続く道あり富士詣で
畏くも神体富士の滴(したた)れり
峯雲やひと遠くあり近くあり
夏の蝶八合五尺をよぎりけり
夏霧の裂け山頂の近くなる
夕焼けて陰富士大きくなりけり
八月の富士悲しめりぎらぎらと

秋：富士周辺の山歩き

古城跡親しきは富士秋の風
落葉踏む乾きし音の楽しかり
おおかぜやいちばん遠き秋の富士
富士箱根天城連山秋きたる
二つ三つ峠越え行く富士見秋
秋立つや富士吹き晴るる三湖台(さんこだい)
空の端富士の裾より秋深む

一般社団法人移行認可取得のお知らせ

先般の法改正を受けて社団法人進交会の一般社団法人への移行を神奈川県庁に申請していましたが、今般6月10日付にて、一般社団法人への移行が承認されました。

尚 一般社団法人の登記は7月1日付で行われる予定で準備が進められています。

会員異動のご連絡

平成23年3月～6月の会員異動です。

- ・ 昭16Y 斉藤新治：平成22年12月30日ご逝去。
- ・ 昭31商 加藤守宏：退会希望(H23.6.14、ハガキ受領)。
- ・ 昭35商 西尾健：住所変更。新住所：〒606-0015、京都市左京区岩倉幡枝町559-4 TEL 075-201-5722。
- ・ 昭39商 石原浩：勤務先名変更：(従来)日本SPセンター社長→(株)住プロモーション代表取締役。
- ・ 昭51商 内田隆：役職変更(ご昇任)：積水ハウス(株)取締役 就任。
- ・ 昭53文 石川清英：役職変更(ご昇任)：平成23年5月：大阪信用金庫 執行役員就任。
TEL番号変更：(従来)06-6275-6596 →06-6775-6596
- ・ 昭60文 和田喜彦：勤務先・役職変更：(従来)札幌大学助教授→同志社大学経済学部教授、TEL075-251-3582、〒605-8580、京都市上京区今出川通り。
- ・ 平元文 泉恒太郎：事情により、退会を希望。
- ・ 平6生 山本詠子：平成23年5月高知県に転居。退会。

平成23年度運営会費納入者ご芳名

ご協力有難うございました

(23.7.8. 現在 数字は卒業年次)

(Y校) 昭25 西村芳穂 26 深谷悦男 28 北川三晃・横田誠夫 30 鈴木岐侑 35 内田正雄 36 斎藤直樹 38 酒瀬川 裕

(Y専) 昭12 富田 豊 13 李 馨 19 倉内禅 20 平田誠治

(商学部) 昭30 南 博 31 前田吉雄・水田 宏・遠矢俊郎・平野哲生 32 小川哲彦・土井一興・前田治之 33 押村忠男・木村勝彦・島田 弘・関 敏光・浜内純二・西田元彦 34 清水弘道・荒巻弘志・植田美夫・竹内義勝・山田裕康・渡辺 清・浅井幸洋・渡壁保次 35 大石 昭中島 裕・西田基雄・戸田文夫・西尾 健・辻村通弘 36 安積文男・大嶋進治・坂上晋太・野口 実・松下 巖・山口昌志・小野甫夫 37 板倉光一・高橋修三・高木敏幸・出射靖郎・長渕 勲・十時 弘 38 加藤和男・後藤 求・中島邦雄・中田邦政 39 石原 浩・鞍本昌男・坂口龍二・中原悠司・幡掛大輔・鈴木剛夫 40 吉野幸志・岡崎俊太郎・小林 博・富田俊三・坂原修二・山本英夫・小坂勝之・松田至弘 42 鈴木康彦・中崎道生 43 関 忠男・田口孝雄・那須一正・廣内禎介・竹内翔司・菅 英伸・野村庸二 44 白石富男・全 在紋・富田一弘・城島護彦・泉 善高・後藤隆雄 45 大内 謙・三善慎一 46 森山 茂・竹内邦彦・岡崎 智 47 清水 薫・山崎 弘・松井富士夫・大塚健治 49 竹田 博・市原 裕 50 麻野広行 51 内田 隆 58 塚本義久 62 浅香辰也 平6 北見龍彦 平7 山口 龍

(文理学部) 昭33 原田哲郎 34 芦田太久雄 36 原 洋志 37 中村利寿・尾田恭朗・伊東祐一郎 38 小山浩司 39 柿花和夫・竹村哲成 40 青柳秀克 41 奥村忠道 42 半田澄夫・小林光雄 46 森田浩一 48 日暮雅夫 51 田辺俊二 52 三木京子

53 三木得生・石川清英 57 中西万里 58 細野真嗣 60 和田喜彦 63 佐々木亜以子 平元 泉 恒太郎 平5 小畑奈尾 平6 山本詠子 7 杉野利幸

(医学部) 昭32 谷 莊吉 38 津田義則 45 安武建二 49 北川誠一 51 牧 一郎 平17 福本 毅

(看護学部) 昭47 津田洋子

幹事会報告

進交会近畿支部長 昭34 商 植田美夫

(5月11日(木) 於 門真市松心会館)

出席者： 深谷悦男 植田美夫 原 洋志 出射靖郎
内田正雄 中原悠司 小林 博 半田澄夫 泉 善高
白石富男 森山 茂 森田浩一 竹田 博 川戸眞吾
塚本義久 山本詠子 杉野利幸 一色宏志

議題1. 支部役員の改選について

森田浩一・横田博司両氏が新幹事に就任

前回の幹事会で幹事候補に挙がった7名の方々への交渉経過について泉事務局長より報告があり、最終的には森田浩一(文46) 横田博司(商59) の両氏が新

幹事として就任されることになった。

その後会則 11 条に則り幹事の互選により支部長・副支部長・常任幹事・事務局長・会計・会計監査全員の留任が全会一致で決定、新たに中原常任幹事を「しんこう」編集長に決定した。尚 ご本人の強い希望により大石 昭・吉田 周・長尾謙吉 3 氏の辞任が了承された。

再任決定後の支部長挨拶

「昨年来、体調が優れず出来れば辞任したいと思っ
ていましたが、皆さんのご支援・ご協力により本会
の運営も何とか順調に来ており、ここでは投出し辛
く、引き続きお引受けすることにします。

奈良の集いの折にも申し上げました通り、本会に
は 3 世代の会員が居られ、その方々の調和を図りな
がら、全ての世代の方々にそれぞれご満足いただけ
るように会運営を今後とも続けて参りたい。しかし
将来の為には若い会員の方々への関心を何とか高め
て参りたい。今後とも皆さんの更なるご支援・ご協
力をお願いしたい。」

議題 2. 本年の「近畿支部の集い」について

杉野・山本・一色幹事より会場・日程案が数件提
案され、検討の結果、

10月12日(水)

リーガロイヤルホテル 19:00～ 開催

されることに決定した。

会費 会員 7,000 円 家族 4,000 円とリーガロイヤ
ルホテルとしては格安の進交会価格にしていただ
いた。なお、不足分は繰越金で充当する。

議題 3. 「支部の集い」当日の集客について

今回は特別な集客運動はしない。但し 幹事は事
ある毎にまた他の会員に会われた時には集いのアピ
ールをして、会員の関心を高めていただきたい。

議題 4. 集いの年度幹事について

来年は近畿支部創立 30 周年の節目の年に当たるの
で出射委員長を中心に企画立案する再来年は森山常
任幹事・森田幹事(46 年組)が中心となって企画立
案することに決定した。

議題 5. その他

・次回幹事会の日程 9月7日(水) 松心会館

編集便り 編集人 昭36文 原 洋志

「しんこう」49 号をお届けします。

今年度の近畿支部の集いは 10 月 12 日(水)にリ
ーガロイヤルホテルで開催されます。最終面には会
場案内をさせていただきました。ご家族お揃いでご
参加くださるようお願いいたします。

「しんこう」過去 1 年分の PDF 版を進交会本部の
ホームページに掲載しています。ご覧ください。

<http://shinkokai-web.jp/>

トップページの「支部便り」をクリック。

「しんこう」は会員皆様のご協力で成り立っていま
す。皆様の現況、思い出、趣味などジャンルを問い
ません。下記編集子までお送りください。

〈原稿の送り先〉

原 洋志宛 FAX: 072-682-4193

MAIL: hara_yg88@tcn.zaq.ne.jp

又は中原宛 FAX: 072-729-1362

MAIL: nakahara2001@hotmail.com

平成 23 年度進交会近畿支部の集い

10月12日(水) 19:00～ リーガロイヤルホテルにて

会費: 会員 7,000 円 ご家族 4,000 円

開場は 18:30 です。ご家族お揃いでご参加ください。

ご出欠の返事は同封はがきで 8 月 24 日(水)までお願いいたします。

学生当時の思い出の写真をお持ちでしたら、お送り下さい。集いの会場で皆さんと共に楽
しみたいと思います。写真はお返しします。裏にお名前をお書き添えの上、事務局(泉)
までお送り下さい(8 月末締め切り)。

〒573-0095 枚方市翠香園町 22-3 konkonto-113-izumi@maia.eonet.ne.jp

平成 23 年度進交会近畿支部の集い

10月12日(水) 19:00~ リーガロイヤルホテルにて開催

会場案内



大阪市北区中ノ島 5-3-68
TEL : 06-6448-1121

2階「菊の間」

(開場 18:30)



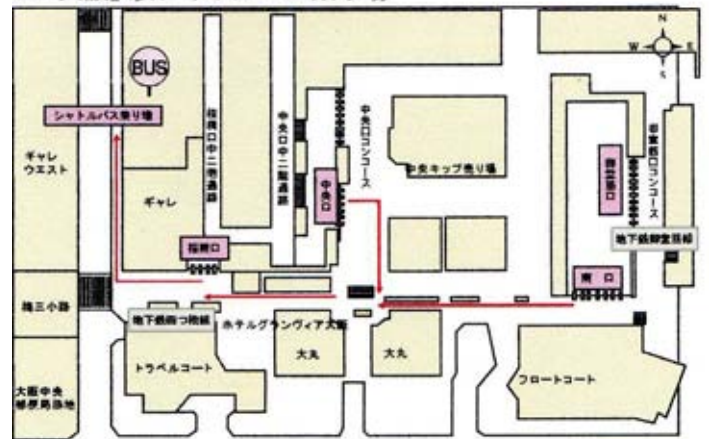
電車

京阪電車 中之島線「中之島」駅 直結
JR 大阪環状線「福島」駅 徒歩約15分
JR 東西線「新福島」駅 2番出口 徒歩約8分
阪神電車「福島」駅西3番出口 徒歩約8分

無料シャトルバス

10:00 ~ 21:00 (6分間隔)
乗り場 JR大阪駅桜橋口より(右図)

JR「大阪」駅シャトルバス乗り場



「リーガロイヤルホテル」の概要 (元リーガロイヤルホテル副社長 進交会会員 河西孝紀)

昭和初期、海外との交流が増えるにつれ、外人宿泊施設の建設が大阪財界より望まれ、昭和10年「新大阪ホテル」として朝日新聞社ビルの西隣に開業したのがリーガロイヤルホテルの前身である。その後昭和40年に現在地に「ロイヤルホテル」を開業、昭和48年に高層階部分を増築し現在に至っている。当ホテルは開業以来、国内外賓客の接遇にあたり、大阪の迎賓館的な役割を果たしてきた。

(新大阪ホテルは昭和48年に閉鎖)

また、この間、東京、京都、新居浜、広島、小倉の各地に連係ホテルの事業展開を順次行なってきた。なお、全国各地にロイヤルホテル名が増えてきた為、これらのホテルと明確な区分が出来るよう、連係ホテルも併せ「リーガロイヤルホテル」と名称変更した。